萊　祀　（おらいし）

萊祀とは、通称は蓬萊祀と呼ばれ現在も続けられているが、旧正月 12 日に継体天皇が河内国樟葉宮に着御あらせられた日を吉日として、古来 12・13 の両日を祭日とし 13 日に萊祀と称して天皇の行幸に擬して神幸の儀を厳粛に行う式典であった。現在は祭日の 2 月 11 日に山車の曳き回しを行い、13 日に萊祀祭を執り行っている。下のポスターは江戸時代に粟田部の画家木津成助により描かれた絵図を元に、即位 1500 年記念して花筐自治振興会により製作されたものである。

当時は村人あげて山車物を終日街中曳きまわし、当日は親類縁者を各家々で招きそれに他の村からは遠近を問わず人々が大勢集まり、街中は終日大賑わいしたと伝えられる。また、福井藩から警護人が派遣され往来の通行は厳しく取り締まられ、蓑笠着用は何人といえども禁じられていた格式の高い神事であった。

蓬莱祀は、天平勝宝年（ 749）頃に初められて、天正元年（1573）まで続けられて暫く中断し、天正 17 年頃から再興して明治 5 年まで続いた。

その当時より毎年当番宅を決めて、当番宅が経費を負担して行われていた。284 年間の当番宅を記録した「ライシ宿帳」が現存している。

戦後間もない昭和 27 年に井筒新造翁が再開し数年は続けられたが、また中断し､昭和 59 年に当時の粟田部壮連協が中心となり再興された。その後は壮年会が続けて、平成になってからは敬成会と壮年会が力を合わせ今日現在まで運営された。

平成 17 年には「蓬莱祀保存会」が設立され、同年「国選択無形民族文化財」に指定された。

継体天皇即位 1500 年の節目の年にも厳かに執り行うことが出来たのも、先人たちはもちろんのこと、地域住民で結成された敬成会や壮年会の地道な努力の結実であろう。

※　栗塚勝治著の郷土史往来に蓬莱祀が詳しく述べられ、起源について別の考察もあるので、興味のある方は読んで下さい。